

複合耐病性

◆適作型

ハウス栽培

9月～3月まき

ときわ交配

ポイント

低温果実肥大力のある省エネ品種！

◆特性

- ウドンコ病、かっぱん病に強く、べと病にも比較的強いいため、薬剤散布が軽減でき、栽培後半まで安定した栽培が行える。
- 草勢は強、節間は間伸びしにくく、側枝・孫枝とも安定して発生する。
- 果実肥大は早く、1～2月の低温期でも実溜まりしにくく、初期から多収となり、樹ボケの心配は少ない。また春先からの高温、乾燥下においても順調に果実肥大し、果形の安定性に優れ、短形果になりにくい。
- 主枝雌花率は、12月播種で60～70%となる。各節1～2果成りが主体となる。

- 果実は21～23cmで、果色は極濃緑、肩こけ少なく秀品率高い。また果やけの発生も少なく安心して栽培できる。
- 葉は極濃緑で中大葉、受光態勢の良い草姿となり、管理作業が行いやすい。

◆栽培のポイント

- 台木は、ぞっこん、GT-IIが適する。
- 灌水、追肥は早めのタイミングで行う。
- 定植後活着までは、主枝節間が詰まり過ぎないように気温は高め(最低17～18℃)でスムーズに活着させる。
- 収穫期の最低夜温は、13℃でも果実肥大はスムーズで安定した収量となる。
- 安定した草勢で最後まで側枝の発生が良いため栽培後半に過繁茂になり過ぎないように適宜摘芯を行う。



“作る”を感動に変える、おいしさを届けて60年。

株式会社 **ときわ研究場**